

[中国]

中国東北三省の景況感について

富山県大連事務所 副所長 酒井 和宏

1. 東北三省の現状

当事務所が活動の中心とする遼寧省において2016年〔1～12月〕のGDP成長率が▲5.0%となるなど、東北三省の経済の減速感が高まっている。また、2016年10月には大連市に本社を有する「東北特殊鋼集団」が鉄鋼業の国有企業として史上初めて破産整理を行い、中国政府は国有企業といえども救済しない姿勢を示した。これらのこともあり、地方政府関係者や企業経営者には悲観的なムードが漂っている。

東北三省は、鉄鋼・資源（石油・石炭）などの重工業が盛んで国有企業が経済の中心を担ってきたが、現在では過剰生産能力の問題等に苦しんでいる。なお、各省の特色は下記のとおりである。

【遼寧省】

主要産業は重工業、特に鉄鋼、造船が盛ん。省都の瀋陽市や大連市の省内経済に占めるウェイトが、圧倒的に高い。

【吉林省】

主要産業は、自動車、石油化学など。省都の長春市に本拠を置く中国第一汽車は、中国自動車業界ビッグ5の1社（トヨタとも提携）。

【黒龍江省】

中国最北の省でロシアとの貿易も盛ん。一部地域では中国国内で唯一ルーブルが流通。石油・石炭などの重工業や、農業が主要産業。

以下の2～3項では、東北経済振興のために中国政府が実施している施策について記載したい。



東北三省：遼寧省、吉林省、黒龍江省の三省
（地図は「中国まるごと百貨辞典」より参照）

2. 「東北振興第十三次五ヶ年計画」

2016年12月、東北経済振興のための「東北振興第十三次五ヶ年計画」が発表された。

計画の中で過剰生産・過剰債務問題の温床となっている国有企業について、企業再編、上場の積極的な推進、職員持ち株制度や投資ファンドの参画など混合所有制を導入することで改革を進めるとしている。

当地区の主要産業である製造業については、老朽化した設備に依存する旧工業地帯というイメージから脱するため、多数の製造業の革新センターを新規設営し基礎研究や中心技術の育成を推進することで、モデルチェンジを図る計画だ。

また、他地域と比較して発展が遅れているサービス業についても、GDPに占める比率を44.7%〔2015年〕から47.4%〔2020年〕まで高める計画とした。

(なお2016年3月に公布された中国全土を対象とする「第十三次五ヶ年計画」では、サービス業のGDPに占める比率を50.5%〔2015年〕から56%〔2020年〕まで高める計画となっている。)

3. 自由貿易試験区

2016年8月、遼寧省を含む7つの省にて「自由貿易試験区」を新規に設立すると発表された。「自由貿易試験区」では、金融・投資・貿易面などで大胆な規制緩和を行っており、先行した上海市、広東省、福建省、天津市では外資系企業が新規進出するなど一定の成果を取めている。

なお、現状の見通しでは、遼寧省の「自由貿易試験区」は大連、瀋陽、營口の3都市に設置されるのではないかとされており、外資への経済開放の更なる深化と重工業に依存する経済に新たな発展モデルをもたらすことが期待されている。

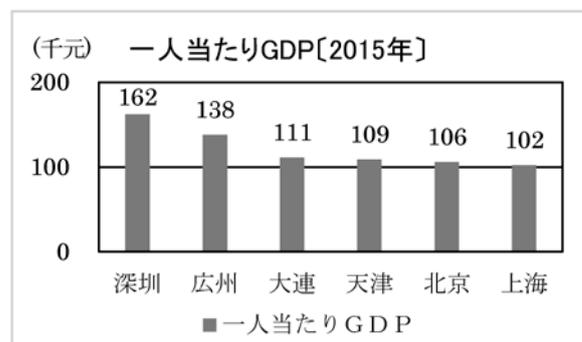
4. 遼寧省の政治的混乱

上記施策等が検討される一方、政治的混乱が経済に悪影響を与えた模様だ。2016年9月、遼寧省人民代表大会の代表（日本における県議会議員のイメージ）の代表選出の過程において賄賂が用いられたと報道され、議員数の約7割にあたる454人が摘発された。人民代表大会に欠員が生じたことで行政関係も機能不全となり、経済活動が一時停滞したようだ。

また、2017年1月には遼寧省人代にて、2011～2014年にかけて遼寧省の経済統計が改竄され、実際の数値よりも高く計上されていたと発表された。中国国内における経済統計の真偽性については常々問題視されているが、公式に改竄を認めたということで、現地でも大きなニュースとなっている。GDP成長率等の経済指標が地方政府職員の人事に影響を与えることもあり、これらの改竄が継続して行われていたようだ。

5. 大連市の一人当たりGDPについて

比較的マイナス面の話題に触れてきたが、優れた点についても記載したい。富山県大連事務所が所在する大連市は積極的に外資（特に日系）を取り込むことで経済成長してきたが、実は、大連市の一人当たりGDP〔2015年〕は中国国内において15位で、天津、北京、上海よりも上位の順位となっている。



また、記述のとおり遼寧省全体のGDP成長率〔2016年〕は▲5.0%だが、大連市のみで見ると+6.5%だ。

大連市は、当初製造業の集積地として発展し、その後IT産業（ソフトウェアパーク）やサービス業の進展により現在でも経済成長を継続しており、東北三省のモデルケースと言えるかもしれない。

【参考】大連市の2016年（1～6月）GDPに占めるサービス業の比率は54.4%。

6. 最後に

東北三省は歴史的に日本との結びつきが深く、多くの日系企業が進出している。また、富山県は遼寧省と1984年に友好提携を締結しており、大連⇄富山間で直行便が飛んでいるなど関係の深い地域でもある。本文に記載した振興策などが奏功し東北三省の経済が回復していくのかについて、現地より注視していきたい。

以上